

タイトル「**2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	危機管理法制 1（企業・取引）		
担当教員	工藤 聡一		
対象学年	1年,2年	開講学期	前期
曜日・時限	火 2		
講義室	1303	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	—		
科目中分類	修士		
科目小分類	講義・コア		
科目の位置付け（開発能力）	ODP1(意欲・経験・適性)：20% 災害,テロ,国際紛争等,複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察 ◎DP2(学識・専門技能)：60% 災害,テロ,国際紛争等,複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための,法学,政治学,国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能 ODP3(思考力・判断力・表現力)：20% 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力		
教員の実務経験	なし。		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	モノの調達,生産,輸危機管理主体としての企業を理解するには,その原理としての営利取引,営利取引を最適化するための組織,更には,公正な営利取引を確保するための経済規制の各側面から法制を分析する必要がある。本講では,民法上の取引との対比において企業の営利取引を特徴づけたうえで,企業が締結する具体的な取引契約に着目した法規制・判例を素材に,いかなる形で法的紛争が生じ,それがいかに解決されたのか,そしていかにして紛争の発生を回避すべきかについて検討する。これらの研究プロセスを通じて,学識・専門技能に加え,判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とする。 ■キーワード： 企業取引、営利取引、紛争解決 授業は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づく効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためにオンライン授業を一部取り入れる場合があります。		
授業の趣旨	■副題 企業取引の基本的仕組みをおさえ、とくにロジスティクスに関する取引法の広がりとお深さを知ろう。 ■授業の目的 売買、売買仲介、運送、運送仲介、倉庫等の企業取引において、取引の当事者の利益がどのように調整されているのかを把握し、その内容を適切に説明できるようになることを目的とします。 ■授業のポイント 現代社会は企業社会といわれます。企業が、我々の身近にあって、毎日の生活に密接にかかわる制度であることは、誰の目にも明らかです。物質面だけをとらえても、身の周りの物のほとんどは企業によって作られ、運ばれ、そして売られたものに違いなく、それらを得るための糧さえ、多くの人は企業における労働に負っています。本講は、このように今日制度インフラとなった企業を規律するルールに光をあて、そこでいかなる利害調整が行われているのか、理解することとします。具体的には、商取引に関する商法総則・商行為法上の基礎概念・制度趣旨の理解からはじめて、判例・学説の動向を踏まえ、また各種の商事特別法、約款との関係を含めて、陸、海、空にわたるロジスティクス取引にかかる法制度の運用の実際を確認することとします。		
総合到達目標	■企業取引に関する主要法制度の機能を把握し、円滑にこれを運用するための学識を表現することができる。 ■ロジスティクスに関する法規範及びその社会的背景を理解し、学識として表現することができる。		
成績評価方法	■授業内テスト2回（50%：50%） DP1；DP2；DP3 （評価の観点） 論述式問題により、企業取引法の主要問題についての学識を確認します。知識の正確さ、及び答案の構成・表現の適切さを評価します。 （フィードバックの方法） テスト終了後、模範解答を紹介しつつ、関連の知識をおさらいします。		
履修条件	特になし。		
履修上の注意点	特になし。		
授業内容	回	内容	
	1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション（企業法の体系、商行為の通則）、身近な企業取引（1）売買取引「商事売買」 ②授業概要 （ガイダンス）授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について確認する。 （イントロダクション）企業法の体系を概観し、今後の学修内容を俯瞰する。 身近な企業取引として、民事取引との対比における「商事売買」の仕組みを考察し、企業取引法への関心を育てる。 ③予習（120分）	

	テキスト『現代商取引法』（第Ⅰ編第１章、第Ⅱ編第１章）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する。
2	①授業テーマ 身近な企業取引（２）売買仲介取引「仲立人」 ②授業概要 身近な企業取引として、「仲立人」ないし「仲介業者（ブローカー）」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる（Ｅ１，Ｉ１）。また、派生論点として、バーチャル・ショッピング・モール等のプラットフォーム責任を考える。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第２章１）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する
3	①授業テーマ 身近な企業取引（３）運送取引「運送人」、運送仲介取引「運送取扱人から通運業者、そしてフォワードへ」 ②授業概要 身近な企業取引として、「フォワード」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第２章２）を読み、メモをとって受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する。
4	①授業テーマ 一般企業設備（支配人、使用人、商号、商業帳簿、商業登記） ②授業概要 企業取引を支える汎用的な企業設備として、「支配人」の権利義務を考察し、企業取引法への関心を育てる。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅰ編第２章４、第３章１）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する。
5	①授業テーマ 陸上運送の企業主体—運送人・責任制度、陸上運送の企業活動—物品運送（含相次運送・貨物引換証・運送約款）、旅客運送 ②授業概要 陸上運送人の権利義務について考える。国際複合運送における相次運送責任の成否を検討に含める。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第３章１、６）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する。
6	①授業テーマ 海上運送の企業主体と企業設備—船舶所有者・船舶共有等、責任制度、海員・船舶 ②授業概要 海上運送の大資金性及び投機性が反映した、海上運送人の企業主体及び物的設備の態様を考察する。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第３章３）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する。
7	①授業テーマ 海上運送の企業活動—物品運送（含船荷証券）、旅客運送 ②授業概要 内航運送及び外航運送の事業内容と関連制度（決済）について考える。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第３章４）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する。
8	①授業テーマ 海上危険への対処—船主責任制限、油濁損害補償、共同海損、船舶衝突、海難救助、海上保険 ②授業概要 海上企業活動において不可避な海上危険への対処にかかる制度を考察する。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第３章４）を読み、メモを取って講義ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する。
9	①授業テーマ 運送仲介と倉庫寄託の企業活動—運送仲介取引「フォワードからインテグレータへ」、倉庫取引 ②授業概要 ロジスティクスの高度化に占める運送仲介及び倉庫寄託の役割を考察する。 第８回までの授業のまとめを兼ね、第１回授業内テストを実施します。解答に引き続いて、正答の説明を含む問題解説を行います。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第２章２）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する。
10	①授業テーマ 国際航空運送の制度インフラ、航空運送の企業主体—航空運送人・責任制度「旅客責任制度の変遷（１）」 ②授業概要 航空機の円滑な往来を可能にする国際的な法的枠組みを確認する。 1929年ワルソー条約から1966年モントリオール協定までの、航空旅客責任制度の変遷を跡付ける。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第３章５）を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所及び講義ノートを通読する。

11	①授業テーマ 航空運送の企業主体—航空運送人・責任制度「旅客責任制度の変遷（２）」 ②授業概要 1971年グアテマラ・シティー議定書から1999年モントリオール条約までの、航空旅客責任制度の変遷を跡付ける。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章5）、PDF教材『現代航空法論』（10）を再度読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト該当箇所を通読する。
12	①授業テーマ 航空運送の企業設備（航空機・航空機金融、機長・空員）、航空企業の活動（貨物運送、エア・ウェイビル、旅客運送） ②授業概要 海上運送との対比において、航空企業の設備及び同企業活動の特徴を確認する。 ③予習（120分） PDF教材を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） PDF教材及び講義ノートを通読する。
13	①授業テーマ 航空危険への対処—空中衝突・空難救助、地上第三者損害、航空保険 ②授業概要 航空企業活動において不可避な航空危険への対処にかかる制度を考察する。今後利用増加が見込まれるドローン（小型無人機）の問題を考察対象に含める。 ③予習（120分） PDF教材を読み、受講ノートを準備する。 ④復習（120分） PDF教材及び講義ノートを通読する。
14	①授業テーマ 宇宙運送の可能性—宇宙法と弾道宇宙飛行の法的地位 ②授業概要 海陸、空陸、海空の各複合運送の課題、及び宇宙運送の可能性を考察する。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』（第Ⅱ編第1章）及びPDF教材を読み、メモを取って受講ノートを準備する。 ④復習（120分） テキスト、PDF教材及び講義ノートを通読する。
15	①授業テーマ サマリー ②授業概要 半年間の講義を総括する。 第9回以降の授業内容のおさらいをかねて、論述式問題により、第2回授業内テストを実施します。解答に引き続いて、出題意図、模範解答の説明を含めた問題解説を行います。 ③予習（120分） テキスト『現代商取引法』及びPDF教材を通読する。 ④復習（120分） 自己のキャリアプラン、興味に即して、本講で学んだ概念、手法を用いたレポートを作成する。
関連科目	企業取引のうち航空運送取引については、「ロジスティクス法特講」で掘り下げます。
教科書	■藤田勝利＝工藤聡一編『現代商取引法』（弘文堂、2011年）。
参考書・参考URL	■江頭憲治郎『商取引法（第9版）』（弘文堂、2022年） ■総務省・法令データ提供システム：http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi ■McGill大学航空宇宙法研究所リサーチ資料：https://www.mcgill.ca/iasl/centre/research
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に指示します。 ■オフィスアワー 木曜昼休み。それ以外の時間については、メール等でアポイントメントをとって来室ください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%；パブリックセキュリティ25%；グローバルセキュリティ25%；情報セキュリティ25% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理30%；法学70%

